

成熟社会研究所
Center for Mature Society Research

第 2 号

Newsletter

活動報告



記事一覧：



学生メンバーでトライアル講座を実施！

サバイバルカレッジ 知恵の環 ～生き抜くために学ぶ経済



「知恵の環」に参加して～みんなの感想



3つのテーマで考える「信頼の現場」～研究会を開催

地域連携プロジェクト



シニアのタブレット利用に関するアンケート調査結果

～茨木シニアカレッジのアンケート調査にアドバイス&協力を行いました～



シェアラボ 第3期はじまりました～「とびこめ、未知へ！」



成熟研・引越しました！

生き抜く知恵を、
学ぶ！

学生メンバーでトライアル講座を実施！

サバイバルカレッジ知恵の環～生き抜くために学ぶ経済

年金について、学生はどこまで知っている？

去る2月17日（水）の5402教室・・・そこには現在の年金制度について議論を戦わせる約20名の学生たちが！ 若者が現代社会を生き抜くための知恵を実践的に学ぶ「サバイバルカレッジ知恵の環」のトライアル講座です。サブタイトルは「生き抜くために学ぶ経済」、テーマは「年金」。学生たちは全員、事前に年金について調べる課題を行ってから参加しました。

最初はグループに分かれて「現在の年金制度に賛成か、反対か」について、自分の調べたことをベースに話し合うワーク。中には賛成派が一人のグループがあったり、賛成の主張が他の参加者の意見で反対に覆ったり、自分の調べ方の偏りに気づいたり、他の人の意見になるほどと思ったり、いろいろな刺激と気づきがありました。話し合いの内容はグループごとに発表して共有しました。

ゲストは日本経済研究センターの長町さん！

続いて行われたゲストの日本経済研究センターの長町理恵子さんによるレクチャー「年金について考える」に、学生は熱心に聞き入りました。このように企業と協力して行うことも知恵の環の大きな特徴です。レクチャーからは、年金の知らない側面を知ると同時に、何事も「メリット」と「デメリット」の両面から考えることの重要性について学びました。その新たなアンテナは今後きっと生かされるでしょう。最後に質疑応答を行い、トライアル講座は終了しました。

講座の本式開講に向けて準備中です。

終了後のアンケートでは、ほぼ全員が「新しい知識・知恵を得られた」とのことで、各自が学びを持ち帰ることができたようです。まだまだ改善点はありますが、引き続きトライアル講座を実施し、次年度以降に本式講座を開講できるよう、進めていきます。どうぞ楽しみに！

生きる知恵 生きた知恵
を学びたい！

そんな学生の参加を 待っています!!



進行役は経営学部
の平本
玲香さん
(当時2年生)



「あなたは現在の年金制度に賛成？反対？」グループワークと発表の様子



ゲストの長町理恵子さん

「知恵の環」に参加して～みんなの感想



＜学生参加者の声＞

- ・議論の場に参加した経験が少ないのですべてが新鮮で、有意義な時間を過ごせました。
- ・長町さんのデータを基にされた見解や主張は、大変わかりやすく、かつ論理的でとても勉強になりました。
- ・(事前課題について) 偏った調べ方をしていたので、批判的な意見しか持てなかったのですが、講師の先生の話や他の人の意見を聞いて、自分の意見を持つ際には、それぞれの立場の意見や考えを知ってから考えていくことが大切だとわかりました。
- ・(年金などについては) 今まで全く気にとめていなかったもので、今回話を聞けて、他の学生よりも予備知識が増え、とてもためになったと感じました。
- ・最初は正直あまりテーマに興味を持っていなかったが、いざチームでの話し合いが始まると楽しく参加することができた。それぞれの話を聞いていると、自分の調べたことがほんの狭い一部分でしかなく、それだけで物事の良し悪しを決めるのはよくないと思った。
- ・年金を「払わない」人間にはなっても、「払えない」人間にはならないようにしようと思いました。
- ・大学での課外活動にはあまり参加したことがなかったので、いい経験になりました。普段あまり深く考えていないことを、こうしてグループで話し合う機会は、とても貴重なものだと思います。

＜企画運営に取り組んだ学生コアメンバーの声＞

報告レポートも作りました！

- ・トライアル授業の構成に取り組んでいた時(特に後半の時期)に皆勢いがあってとてもよかったです。これからはミーティングの時に学生メンバーがもっと前のめりで意見をいえるようになったら、良くなるのではと思っています。【経営学部3回生：平本 玲香さん】
- ・事前にある程度の知識を持っていたことで議論も活発にできたと思います。今後はより議論しやすくするために、テーマをもうすこし絞り込むことも必要だと感じました。【経営学部3回生：古田 向さん】
- ・コアメンバーには途中からの参加でしたが、会議への参加やゲストとのやりとりなど、なかなかできない経験ができました。今後は本番に向けてのスケジュールにもう少し余裕を持ち、また、重いテーマでもとっつきやすいようにキャッチコピーなどを工夫していきたいです。【経営学部2回生：大野 祐季さん】



3つのテーマで考える「信頼」の現場 ～研究会を開催～

昨年の11月にブレ研究会とともに発足した「信頼の現場」研究会。第2回目の研究会を去る3月23日(水)に開催しました。追手門学院大学の教授・講師をはじめ、JR西日本、りそな銀行、朝日新聞社、NPO法人、武庫川女子大学などから22名が参加、「企業」「地域」「教育」の3つのテーマで3時間に渡って議論しました。各テーマ30分の話題提供+30分の議論=1時間×3セットの濃密プログラムです。

■企業編「経営学研究における信頼概念」

話題提供：神吉 直人 氏(追手門学院経営学部准教授、成熟社会研究所 副所長)

■教育編「子どもの幸福度を高める環境づくり」

話題提供：矢野 裕俊 氏(武庫川女子大学 教授 文学研究科教育学専攻)

■地域編「コミュニケーションを通じたまちづくり」

話題提供：土井 勉 氏(一般社団法人システム科学研究所)

※信頼の現場研究会では今後、ゲスト講演や現地ヒアリングなども予定しています！



シニアのタブレット利用に関するアンケート調査結果

茨木シニアカレッジのアンケート調査にアドバイス&協力を行いました

地域団体・茨木シニアカレッジと連携し、シニア世代の ICT 利用促進に向けてタブレット利活用に関するアンケート調査を行いました。この調査は、茨木市のシニア関連団体（茨木シニアカレッジ、茨木市シルバー人材センター、市老連、茨木市社会福祉協議会）の協力を得て実施したもので、各団体に属する 50 歳以上の男女を対象に、タブレット利活用の現状や関心度などを探り、今後のシニアの防災や日常生活における自助共助の促進の一助として、**タブレット等の ICT 機器を活用した新しい生活の仕組みづくりを検討するための基礎資料**とするものです。

2016 年 1 月～4 月にかけて行われた調査・集計では、912 名（男女比 6：4）からの回答がありました。主に 60 代後半～70 代前半の年齢層が中心で、配偶者との二世帯が半数を占めました。

タブレット・パソコン・スマートフォン・ガラケーのいずれかの ICT 機器を所有している人は 9 割近くにのぼり、都市ならではの傾向がみられました。機器の種類としてはパソコンとガラケーがどちらも 55%以上で、タブレットの所有率は 15.6%。パソコンで十分と考えるシニア世代が多数でした。

しかし「**タブレットを持っていないが使ってみたい**」とする層も一定数みられ、**プレゼント等でもらったタブレットを十分活用できていない実態**もあり、**今後のタブレット活用の可能性**を見出しました。



シェアラボ第3期

はじまりました

参加型研究会として少しずつ定着してきたシェアラボも、第3期（3年目）を迎えます。今期は全4回で計画中で、年間テーマは

「とびこめ、未知へ！」です。

未知の世界を知り、新しい視野が開ける、そんな機会としたいと思います。

記念すべき初回では、5月23日（月）に山伏の方をゲストにお招きしました。第2回以降も「未知」なるゲストが登場予定です。

開催時には学内チラシ等で告知します！

成熟研・引越しました！

今年の春（2016.4）より、成熟社会研究所は**追手門学院大学の所属機関**となり、それに伴い、所在地を大阪城スクエアから**茨木市の追手門学院大学キャンパス**に移しました。

今後は大学との連携も深め、学生参加の機会も増やして、さらなる研究調査を進めていく予定です。

どうぞ今後ともよろしくお願い致します。

※新住所・連絡先は下記に記載しています。



発行：追手門学院大学 成熟社会研究所 Center for Mature Society Research

新住所 567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15

TEL:072-665-5068

seijuku@otemon.ac.jp

<http://www.otemon.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/otemon.seijuku>

■研究所メンバー■

所長：佐藤友美子（追手門学院大学 地域創造学部教授）

副所長：神吉直人（追手門学院大学 経営学部准教授）

所 員：村上 亨（追手門学院大学基盤教育機構教授）
神谷聡子、中川啓子（編集担当）